

オンラインセミナーレポート

本プロジェクトは、生徒が実社会での課題の解決に向けて、大学や研究機関、企業、自治体等と連携しながら探究活動に取り組む機会を設定し、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育むことをねらいとしており、4つの型を設定しています。

この度、「地域課題解決型」、「グローバル型」及び「アントレプレナー教育型」それぞれの探究活動を進める上で必要な知識・技能を学ぶオンラインセミナーを実施しました。

参加した生徒たちは、今後、各学校で探究活動に取り組み、来年（令和6年）1月に成果を発表します（成果発表会の開催）。成果発表会では審査を行い、上位チームは、来年2月1日（木）に開催する「探究チャレンジ・ジャパン」に参加する予定です。

社会との共創

地域課題解決型

グローバル型

アントレプレナー教育型

科学技術活用型

地域課題解決型オンラインセミナー

令和5年7月27日（木）開催
15校、15チーム、65名参加

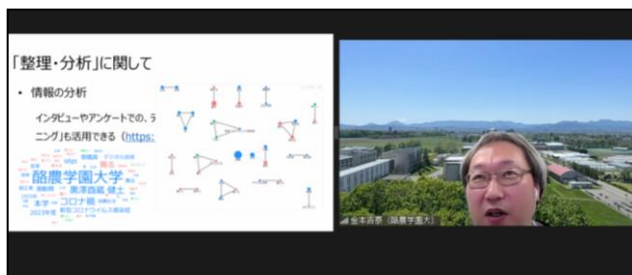
1 地域課題解決型のセミナーの概要

はじめに、探究活動の進め方や課題の設定について、説明やグループ協議を行いました。講義では、探究活動の参考となるよう、昨年度「探究チャレンジ・北海道」に出場した浦河高校の生徒の皆さんから発表していただきました。

その後、酪農学園大学循環農学類教職センターの金本准教授による「探究活動における情報の収集と整理・分析」についての講義のほか、北海道大学観光学高等研究センターの岡田准教授による「自分たちの地域について振り返って考えるワークショップ」を行い、参加生徒は、地域のよさや課題などについて様々な視点から理解を深めていました。



浦河高校の発表紹介の様子
(昨年度「探究チャレンジ・北海道」出場校)



酪農学園大学 金本先生の講義の様子



北海道大学 岡田先生の講義の様子

2 参加生徒の声

(1) 各講義に取り組んだ感想

- ・地域の課題について、グループワークを通して仲間と考えたことで、課題にどのように取り組めばよいか分かりました。実際に浦河高校が発表してくれたので、理解しやすかったです。
- ・探究活動における主張の裏付けや、客観性をもって取り組むことの大切さ、必要な情報の収集の仕方が分かりました。
- ・単に調べて、まとめるだけでは不十分であり、考察して、そこから課題を見つけて、どんどん深掘りしていくことが必要だと分かりました。
- ・改めて自分の住む地域の課題を考え直すことができ、グループワークによって考えを深めることができました。他校の話も聞け、いろいろな地域の課題を知ることができ新鮮でした。
- ・ワークショップで仲間と一緒に自分たちの地域の長所・短所を洗い出すという取組を経験した結果、思考力や仲間との協調性が鍛えられたと感じました。

(2) 今後の探究活動に対する意気込みや期待していること

- セミナーに参加する前は、探究活動で課題を掘り下げることが難しそうと感じていましたが、どのように進めればよいか見通しがつきました。今回のセミナーの内容を今後の活動に生かして頑張っていきたいです。
- これからの探究活動では、セミナーで学んだことを参考に、地域の課題について自分たちなりに調べ、インタビューやアンケート調査をしながら、成果発表会までに自分たちができる精一杯のことをして、よい発表ができるよう取り組んでいきたいと思えます。

グローバル型オンラインセミナー

令和5年7月27日(木)開催
8校、8チーム、36名参加

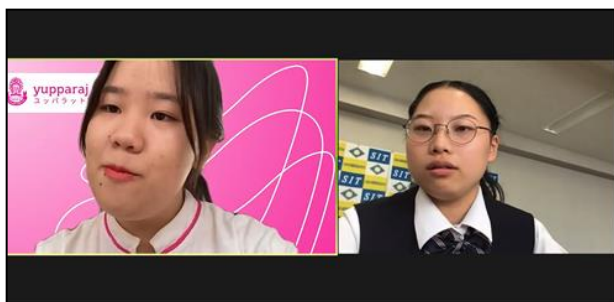
1 グローバル型のセミナーの概要

午前は、地域課題解決型と合同で実施し、探究活動の進め方や課題の設定について理解を深めました。

午後からは、札幌国際大学人文学部国際教養学科の中津川講師が「英語で探究することの意義」についての講義を行いました。講義の後半では、来年度の「探究チャレンジ・アジア」への参加を予定しているタイのチェンマイにあるユパラート・ウィッタヤライ校の高校生と本セミナーの参加生徒がお互いに自己紹介等を行い交流しました。その後、SDGsなどの課題について英語で考えるワークショップを行いました。



札幌国際大学 中津川先生の講義の様子



タイ・チェンマイの高校生と
本セミナー参加生徒との交流の様子



ワークショップにおいて
ALTとともにグループワークをしている様子

2 参加生徒の声

(1) 各講義に取り組んだ感想

- 講師の方から説明していただいた「探究の哲学」の話が特に印象に残っています。この哲学を意識しながらプロジェクトを進めて行くことができるかどうかで出来上がるものに違いが出ると思いました。
- 探究の流れについて、浦河高校の実践例をもとに具体的に学び、探究活動の全体像を掴むことができました。
- 探究活動の成果を英語で発信することの意味が、世界の人々と交流することにあることが分かりました。講師の方のお話が興味深かったです。
- 他校の生徒と意見を交流しながら、よりよい意見にまとめることができました。また、自分だけでは考えつかない意見もたくさん聞いたので参加してよかったと思えました。
- 初対面の人と英語でコミュニケーションを取ることを通して、英語の楽しさや難しさを再認識することができました。

(2) 今後の探究活動に対する意気込みや期待していること

- これから本格的に探究活動を進める中、知らないことがたくさん出てくると思います。フィールドワークを通じて、その知らないことに会うことがとても楽しみです。
- 探究活動を通して、英語力や全体を見通して行動する力を身に付けたいです。
- 探究活動の課題の設定について、本日のセミナーで学んだ構造図などを参考にして取り組みたいと思います。

アントレプレナー教育型オンラインセミナー

令和5年7月28日(金)開催
11校、20チーム、94名参加

1 アントレプレナー教育型のセミナーの概要

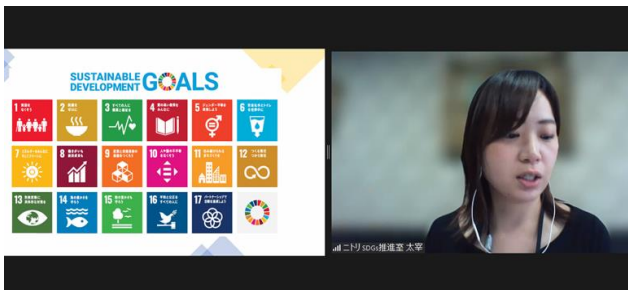
はじめに、探究活動の課題を提供していただく株式会社ニトリホールディングスの担当者から、企業の概要、ビジネスモデルの特徴や強みと弱みについて説明していただきました。

その後、ネクストソサエティ株式会社の芝代表取締役が、企業の抱える課題の解決に向けた基本的な考え方や探究の進め方について講義を行いました。

また、芝代表取締役をファシリテーターとして、ニトリ担当者と参加生徒との対談を行いました。対談後半では、探究活動の参考となるよう、昨年度「探究チャレンジ・北海道」に出場した名寄高校の生徒の皆さんから発表していただきました。



名寄高校の発表紹介の様子
(昨年度「探究チャレンジ・北海道」出場校)



株式会社ニトリホールディングス 担当者の説明の様子



ネクストソサエティ株式会社 芝先生の講義の様子

2 参加生徒の声

(1) 各講義に取り組んだ感想

- ニトリの担当者から説明を伺い、企業の現状や課題を理解することができました。また、SDGsを考慮しながら、企業の理念を守って新しいものを作ることの大変さを知ることができ、自分たちが商品開発をする時に役立てていきたいと思いました。
- 実際の企業を事例とした企業のイノベーションプランを考えるグループワークを通して、探究活動について、どのように進めればよいのか理解することができました。
- 講師の方との質疑応答を通して、自分の疑問が解消し、新たな視点が生まれたのでためになりました。また、昨年度の優秀校である名寄高校の発表を見て、自分が目指すべき方向が分かってよかったです。
- 企業での課題解決策は簡単には見付けることができず、解決した事案は企業努力によるものなのだと思います。チームで取り組んだ演習では、「あ、これいいかも」と思える解決策がたくさん出たので、みんなで協力して交流することが大切だということが分かりました。

(2) 今後の探究活動に対する意気込みや期待していること

- 現実的かつ誰も想像しないアイデアが浮かんだら、とても面白い探究活動になると思うので、しっかり練って考えていきたいです。
- 今回のセミナーで、私たちが具体的に何をすべきかを明確にできました。まだ分からないこともたくさんありますが、チームのみんなで協力して、たくさんの案を出していきたいと思います。学んだことを有効活用して今後の探究活動に役立てられるようにしたいです。
- このプロジェクトの体験を通じて、将来に生かせることを身に付けることができるよう、自分の意見や考えなどを積極的に発信しながら、探究活動に取り組んでいきたいです。

<参加生徒の取組の様子>



深川西高校



当別高校



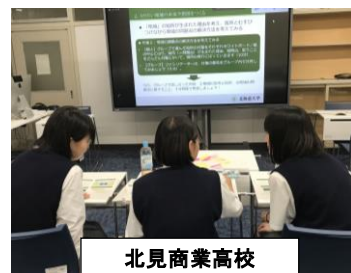
岩内高校



上ノ国高校



美深高校



北見商業高校



帯広三条高校



別海高校



札幌国際情報高校



千歳高校



苫小牧工業高校



浦河高校



函館西高校



斜里高校



釧路江南高校